

2024 年度

大学生と集落の協働による地域活性化事業  
実態調査報告書

受入集落：田人地区（いわき市）

—目次—

1. はじめに

1-1 本活動の概要

1-2 背景

1-3 活動団体の概要

1-4 参加の動機

1-5 参加者

1-6 受け入れ態勢について

2. 田人地区について

2-1 地区概要

2-2 昨年度の活動

3. 活動

3-1 活動スケジュール

3-2 通常活動

3-2-1 テーマ「子供がのびのびできる場づくり」

3-2-2 イベント内容の決定

3-2-3 イベントの詳細

3-3 現地活動

3-3-1 第一回訪問

3-3-2 第二回訪問

3-3-3 第三回訪問

3-3-4 第四回訪問

3-4 受入代表者の方との MTG

4. アンケート結果

5. 活動のまとめ

5-1 まとめ

5-2 来年度に向けて

5-3 感想

## 1.はじめに

### 1-1 本活動の概要

本活動では、対象地域であるいわき市田人地区における昨年度の実態調査をふまえた実証活動を行った。

### 1-2 背景

人口減少や高齢化が進む地域において、高齢化や若者流出により地域活動の担い手不足が深刻化しており、地域住民だけでは集落の維持や再生が困難となることが憂慮されている現状がある。そうした中、福島県では新しい視点や行動力、専門知識などの『外からの力』を持つ大学生と集落が交流することで、地域の復興・活性化を図り、集落の応援団（サポーター）を育成することを目的とし、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」を実施しており、本団体はその事業の採択・委託を受け、本活動に至っている。

### 1-3 活動団体の概要

本団体は2014年に設立し、東日本大震災からの復興に繋がりたいという思いから、人と人、豊かな自然とのつながりに着目して、福島県いわき市勿来地区において活動を行っており、2024年度現在、約80名が参加している。

東日本大震災直後の活動では、復興を目的に岩間防災緑地の整備など、防災や復興公営住宅の人と地域住民の交流を行ってきた。しかし、元の状態に戻すことが「復興」だと定義するならば、11年が経過した今現状達成しているものだと考え、現在では、まちの活性化に貢献すべく、NPO法人や地域住民、専門家など、様々な立場の方々と協力をしながら取り組んでいる。

### 1-4 参加の動機

本事業への参加の動機としては、当団体の活動の経験が、様々な問題を抱えつつも多様な資源や魅力を有する集落の復興においても、活かすことができるのではないかと考えたとともに、新たな地域での取り組みからその活動範囲を広げることによって、団体としての福島県とその地域への関与や貢献を強化していきたいと考えたためである。加えて、私たちの団体は、即自的な活動にとどまらない専門的な活動の展開を課題として、大学教員の指導のもとで調査活動に取り組むことが新たな学びともなり、本事業地区や勿来地区など、継続的、

発展的に福島県の地域活性化へ貢献ができる団体へと成長していきたいという動機があった。

## 1-5 参加者

### (1) 実施者

実施者は、芝浦工業大学の学生ボランティア団体「笑顔のまち なこそプロジェクト」に所属する学生13名（2年6名，1年7名）により構成されている。

### 1-6 受け入れ態勢について

田人地区での受け入れ代表者として、昨年度同様に田人里山再生委員会の事務局の方に協力いただいた。主に、地域活動を行う上での関係づくりやアンケート実施のための機会提供、意見交換などで協力していただいた。

## 2. 田人地区について

### 2-1 地区概要

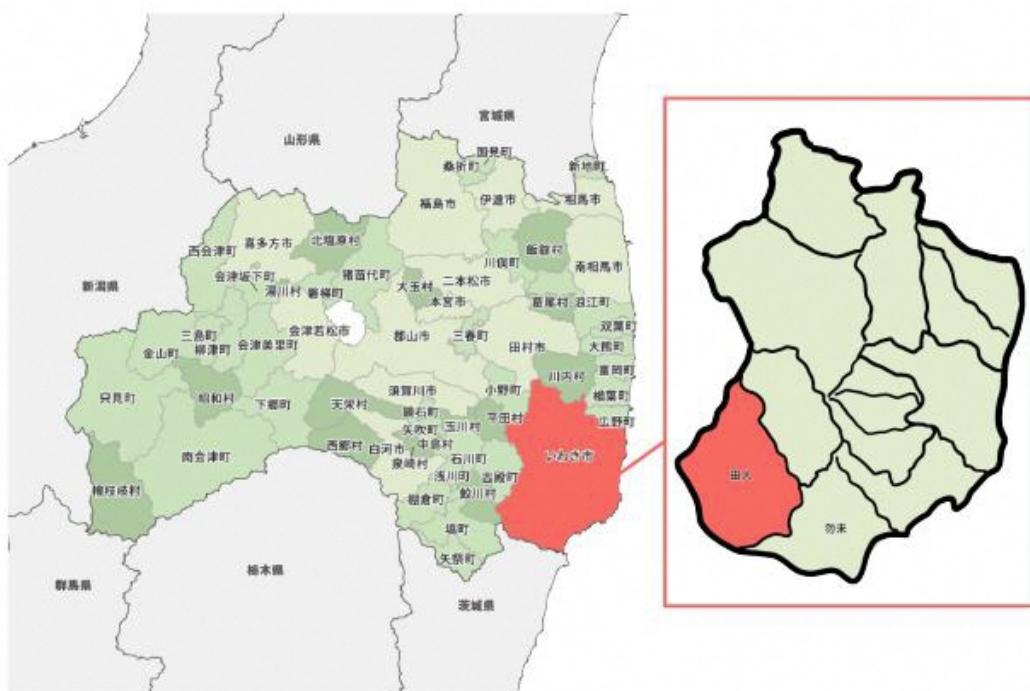


図1 田人地区の位置 (Map-it を使用)

福島県いわき市田人地区は、市の南部に位置し、南東を勿来地区と北茨城市、西北を鮫川村と古殿街に接する。(図1を参照)

田人地区の人口は、令和6年12月時点で1,183人(うち男:596人 女:587人)、世帯数531世帯である。震災前の平成20年頃は、Iターン移住民が多くあったが、近年人口減少が続き、深刻な問題となっている。昭和後期には4000人近くいた人口が、現在は4分の1以下となっている。また、少子高齢化も深刻化しており、高齢化率は令和2年4月時点で49.2%といわき市の中でも最も高い結果となっている。

田人町の生活上の課題として、交通便の悪さ、鳥獣被害、インターネット環境の悪さなどがあげられる。また、田人町内ではスーパーがなく食料品を売っている場所も少ないため、多くの住民は町外に自家用車で買い物に赴く。田人町唯一の医療機関は公民館に隣接する診療所のみである。これらの理由から生活環境を不自由に感じている住民も多い。

また、田人町には田人町唯一の田人保育所がある。平成26年度に小中一貫教育推進校に指定された田人小・中学校がある。家庭・学校・地域が協力するコミュニティスクールである。小学校で4クラス計31名、中学校で3クラス計23名の54名の学校である。

## 2-2 昨年度の活動

昨年度(2023年)は主に田人地区の現地調査をおこなった。具体的には、田人地区で行われているイベント(ワインぶどう収穫体験)の参加、田人町に住む地元の方々に直接インタビュー調査、たびとほっこり祭に参加をしアンケート調査などを実施した。また、現地調査を通じて得られた田人町の魅力や課題をブレインストーミング、KJ法、SWOT分析などを用いて調査・分析した。

### 3 活動

#### 3-1 活動スケジュール

以下に、本プロジェクトの活動スケジュールについて記す。

現地における活動は、全3回行った。

|         |                  |
|---------|------------------|
| 第1回現地調査 | 現地調査             |
| 第2回現地調査 | イベントに向けた実践・リハーサル |
| 第3回現地調査 | イベント本番           |

ミーティングは、受け入れ代表者の方を交えたミーティングを含め、計20回行った。

|            |                         |  |
|------------|-------------------------|--|
| 2024/04/06 | メンバーミーティング              | <ul style="list-style-type: none"><li>・成果報告会の共有</li><li>・2024年度の活動について</li></ul>   |
| 2024/04/15 | メンバーミーティング              | <ul style="list-style-type: none"><li>・2024年度の活動について</li></ul>                     |
| 2024/04/26 | 受け入れ代表者の方を<br>交えたミーティング | <ul style="list-style-type: none"><li>・今後の流れについて</li></ul>                         |
| 2024/05/17 | メンバーミーティング              | <ul style="list-style-type: none"><li>・現状と今後の流れについての共有</li></ul>                   |
| 2024/06/13 | メンバーミーティング              | <ul style="list-style-type: none"><li>・今後のスケジュールについて</li><li>・今年度の予算について</li></ul> |
| 2024/06/18 | メンバーミーティング              | <ul style="list-style-type: none"><li>・前回のミーティング(スケジュールと予算)を</li></ul>             |

|            |                     |                                  |
|------------|---------------------|----------------------------------|
|            |                     | 踏まえた上での今後の流れについての共有              |
| 2024/06/26 | メンバーミーティング          | ・どのようなイベントを開催したいかの案の出し合い         |
| 2024/07/01 | メンバーミーティング          | ・前回のミーティングで出した案をまとめた             |
| 2024/07/10 | メンバーミーティング          | ・受け入れ代表者の方とのミーティングで話す内容を決定       |
| 2024/07/15 | 受け入れ代表者の方を交えたミーティング | ・受け入れ代表者の方からフィードバックを頂く<br>・現状の共有 |
| 2024/08/19 | メンバーミーティング          | ・第1回現地調査に向けた検討                   |
| 2024/08/22 | 受け入れ代表者の方を交えたミーティング | ・第2回現地調査に向けた検討                   |
| 2024/08/27 | メンバーミーティング          | ・第2回現地調査に向けた検討                   |
| 2024/09/22 | 受け入れ代表者の方を交えたミーティング | ・第3回現地調査(イベント開催)に向けた検討           |
| 2024/10/02 | メンバーミーティング          | ・第3回現地調査(イベント開催)に向けた検討           |
| 2024/10/09 | メンバーミーティング          | ・第3回現地調査(イベント開催)に向けた検討           |

|            |            |                        |
|------------|------------|------------------------|
| 2024/10/16 | メンバーミーティング | ・第3回現地調査(イベント開催)に向けた検討 |
| 2024/10/24 | メンバーミーティング | ・イベント開催しての振り返り         |
| 2024/10/29 | メンバーミーティング | ・報告書作成に向けた検討           |
| 2024/11/07 | メンバーミーティング | ・報告書作成に向けた検討           |
| 2024/11/25 | メンバーミーティング | ・報告書の進捗状況の共有           |
| 2024/11/28 | メンバーミーティング | ・報告書の進捗状況の共有           |

### 3-2 通常活動

今年度は、本活動の最終的な目標である「田人地区の関係人口の増加」に向けて、実際に田人でイベントを開くことを主たる活動とした。5月～10月にかけて、イベントの企画に取り組んだ。

#### 3-2-1 イベントの目的設定

まず、イベントの目的を設定した。議論の結果、田人にて「子どもがのびのびできる場」を創出し、参加者に体験してもらうことをイベントの目的とした。田人の魅力と共に次世代を担う子どもたちの居場所を明らかにすることで、参加者が田人との長期的な関わりに積極性を持ち、関係人口の増加につながると考えたからである。



| 大目的(最終的な目的) | ←    | 中目的=What(このイベントの目的)     |       |  |
|-------------|------|-------------------------|-------|--|
|             |      | このイベントで最もテーマにしたいことは何か   |       |  |
|             | まな   | 田人の魅力を再確認               | ♥♥♥♥♥ |  |
|             | まな   | 自然+モノづくりの新体験            |       |  |
| 関係人口を増やす    | わか   | 田人にある職の体験               |       |  |
|             | 澤村圭吾 | 地域内外の交流                 |       |  |
|             | まな   | クリエイターとして田人と関わる         | ♥     |  |
|             | 澤村圭吾 | 楽しかったからまた来たいと思える体験      |       |  |
|             | 澤村圭吾 | また会いたいと思える交流            |       |  |
|             | 平大和  | 田人周辺で行っていないことをやる        |       |  |
|             | わか   | 田人を子供がのびのび過ごせる環境として整備する | ♥♥♥♥♥ |  |
|             | わか   | 地域住民を巻き込んだ交流            |       |  |
|             | 川名   | コミュニティ形成                |       |  |
|             | つめ   | 大人になった時にも記憶に残る体験        | ♥♥♥   |  |
|             | 宗行   | 自然を存分に楽しめる体験            |       |  |

### 3-2-2 イベント案

のびのびできる場づくりに重要な「遊び」と工業大学生である私たちの強み「ものづくり」の二つを取り入れ、「遊び×ものづくり＝子供たちがのびのびできる環境」をキーワードとして設定した。

以下のように、化学、都市計画等の工業的要素を取り入れた様々な案を吟味した結果、「夢のまちづくり ダンボールシティ」をイベントテーマとして採用した。まちづくり体験は、将来どのようにまちを発展させたいのか、田人のような過疎地域の諸問題をどうすれば解決できるのか等を子供たちが考えるきっかけになる。楽しく学べる場の創出と田人の地域振興を両立できる点で、このイベント案が特に有意義であると考えた。

|                                  |                   |                     |    |
|----------------------------------|-------------------|---------------------|----|
| 工業×自然                            |                   |                     |    |
| <b>7/31アイデア出し「子供がのびのびできる場造り」</b> |                   |                     |    |
| 小幡真愛                             | 感覚遊び…五感に触れるイベント   | 色々な素材で遊ぶ            |    |
|                                  | 夢のまちづくり           | 大きな紙に皆で夢の街を描く       | 土木 |
|                                  |                   | 段ボールシティ             |    |
| 三角裕紀                             |                   |                     |    |
| 宗行妻太                             | ガーデニング            | 自然を感じられる            |    |
| 澤村圭吾                             | 田人冒険ツアー           | 田人の魅力的な場所をラリー形式でまわる |    |
| 柚山みらい                            | トレジャーハントウォーク      | 謎解きしながらゴールを目指す      |    |
| 平大和                              | キャンプファイヤー         | インパクトがあって記憶に残る      |    |
| 平大和                              | スウェーデントーチで料理      | トーチを作るところから初める      |    |
| 柚山みらい                            | ホーリー祭り            | 色のついた粉や水をかけあう       |    |
|                                  | スウェーデントーチ+炎色反応で反応 |                     |    |

以上のような議論を経て、ダンボールシティでのまちづくり体験を通し、田人に子どもがのびのびとした環境をもたらすことを今年度の活動指針とした。

### 3-2-3 イベントの詳細(写真に図番号などはつけていません m(\_\_)m)

イベント名：つくろうダンボールシティ 夢中になれるまちづくり体験！

開催日時：2024年10月20日 9:00-12:00

開催場所：田人ワークキャンプ・ビレッジ

参加者：芝浦工業大学学生：10人

小学2年生～6年生：8人

小学生の保護者：3人

補助：下條真輝さん

イベントの流れ

9:00-9:30：開催挨拶、アイスブレイク

9:30-11:30：制作活動

11:30-12:00：発表、フィードバック

詳細

## アイスブレイク

まず、大学生を含めたグループに班分けを行った。  
別れたグループ内で、紙を折る、曲げるなどして高く積み上げ、その高さを競う遊びを行った。



## 作成する建物の決定

まちにつくりたい建物や必要な建物を子供たちに答えてもらい、紙に書きだした。作成する建物を決めるため、ひとり1枚ずつ建物の名前が書かれた紙を選んだ。



## 建物の作成

アイスブレイク時、同じ班であった大学生とペアとなり、各々が作りたい建物の制作にあたった。ダンボール、ハサミ、カッターナイフ、ガムテープ、接着剤、マーカーペンを用いた。



## 発表

建物の名前、工夫点、制作理由の3つに関して子供たち一人ひとりが発表を行った。



## 建物の設置

好きなのところに作った建物を子供たちに置いてもらった。



## 話し合い

大学生による各建物の特徴などの説明を受けた後、どのような場所に設置するのが良いかペアとなった大学生と共に話し合ってもらった。



## まちの完成

話し合いを通して改めて建物を設置してもらった。  
最後に、色の異なるオブジェクトを配布し、自分が住みたいと思ったところに設置してもらった。



## イベント終了後

記念撮影を行った。

イベントに際し、参加者に対してのアンケートを実施した。



## 3-3 現地活動

### 3-3-1 第1回現地活動

#### (1)活動目的

新メンバーが現地の方々との交流及び視察を通し田人を理解すること、及び班でイベントを開くにあたって具体的なイメージを膨らませること

#### (2)スケジュール

|      |       |            |
|------|-------|------------|
| 8/21 | 8:30  | 大宮出発       |
|      | 12:30 | 到着&昼ごはん    |
|      | 13:30 | ミーティング     |
|      | 14:00 | ダンボールシティ試作 |
|      | 16:00 | 反省会        |
|      | 17:00 | 片付け        |
| 8/22 | 7:30  | 朝食         |
|      | 9:00  | ミーティング     |
|      | 12:00 | 田人散策&昼食    |
|      | 15:30 | 帰宅         |

※宿泊先は田人ワークキャンプビレッジ

### (3)詳細

#### ・ 1 日目

フリースクールの子供たちと杏林大学の学生と一緒にダンボールシティをやってみて、イベント本番でどのような流れで行うかを会議で話し合った。

#### ・ 2 日目

初めて田人を訪れたメンバーが多かったため、田人内の飲食店で昼食をとったり、田人内を観光したりした。

### 3-3-2 第 2 回現地活動

#### (1)活動目的

イベント案ダンボールシティの模擬実践

#### (2)スケジュール

|      |       |                    |
|------|-------|--------------------|
| 9/21 | 8:30  | 大宮出発               |
|      | 12:30 | 田人ワークキャンプビレッジ到着&昼食 |
|      | 13:00 | イベント準備             |
|      | 16:00 | ミーティング             |
| 9/22 | 7:30  | 起床&朝食              |
|      | 9:00  | ミーティング             |
|      | 10:00 | イベント準備             |
|      | 12:00 | 昼食                 |
|      | 13:00 | ミーティング             |
|      | 16:00 | 帰宅                 |

※宿泊先は田人ワークキャンプビレッジ

### (3)詳細

#### ・ 1 日目

イベント本番に必要な物の買い出し、マップの製作などを行った。

#### ・ 2 日目

事前に必要そうな建物の作製をした。イベント当日の動きを確認した。

### 3-3-3 第 3 回現地活動

(1)活動目的

イベント「つくろうダンボールシティ」開催

(2)スケジュール

10/19

|       |         |
|-------|---------|
| 8:00  | 大宮出発    |
| 12:00 | 到着&昼ごはん |
| 13:00 | ミーティング  |
| 13:30 | 作業開始    |

10/20

|       |               |
|-------|---------------|
| 7:30  | 朝食            |
| 9:00  | 受付<br>自己紹介&説明 |
| 9:30  | 作業開始          |
| 11:30 | 講評            |
| 12:00 | 終了            |
| 13:00 | 片付け           |
| 14:00 | 振り返り          |
| 15:00 | 帰宅            |

宿泊場所は男子メンバーは田人ワークキャンプビレッジ、女子メンバーはおふくろの宿に宿泊した。

(3)詳細

1日目 準備日

当日に使用する段ボールの確保、当日の役割分担の確認を行ったのち、当日のスケジュールの確認や使用する小道具、用紙の準備などを行った。

2日目 イベント当日

大まかな流れは以下の通りである。

団体紹介→アイスブレイク→建物の製作開始→発表→設置→話し合い

→設置（2回目）→住みたいところにオブジェクト設置→記念撮影

### 3-3-4 第4回現地活動

#### (1)活動目的

田人現地の方々との交流、酉小屋作成の手伝い

#### (2)スケジュール

##### 1日目

|       |         |
|-------|---------|
| 8:30  | 大宮駅出発   |
| 11:26 | 現地集合    |
| 12:00 | 始めの会/準備 |
| 13:00 | 忘年会     |
| 16:00 | お風呂     |
| 18:00 | クリスマス会  |

##### 2日目

|       |          |
|-------|----------|
| 9:00  | 酉小屋づくり開始 |
| 12:00 | お昼ごはん    |
| 15:37 | 解散       |

※宿泊場所は田人ワークキャンプビレッジ

#### (3)詳細

- ・1日目

忘年会では手作りハンバーガーを現地の子供たちや、その他関係者の方々と一緒に楽しんだ。クリスマス会では、あらかじめ用意したプレゼントを大学生と関係者内で交換した。

#### ・ 2日目

西小屋づくりでは、切った竹を地面に立て固定し、それを柱に萱で覆うことで作った。

お昼ご飯の際は、田人いちごテラスをお借りし食べた。

#### 3-4 現地の方との MTG

テーマ案やイベントの詳細、現地活動の日程調整等について、現地の方々との zoomMTG を重ね多くのフィードバックを頂いた。

#### 4. アンケート結果概要

イベントの実施後、参加した子供たちには紙面で、保護者にはフォームでアンケートにか  
い回答いただいた。

アンケートの内容は以下のとおりである。

##### 4-1-1 子ども向けアンケートの結果 (8人)

##### (1) イベントの楽しさに関する評価

質問：「イベントは楽しかったですか？」

回答：全員が「5」と回答した

※「5」は最高評価で、全員がイベントをととても楽しんだことが分かる。

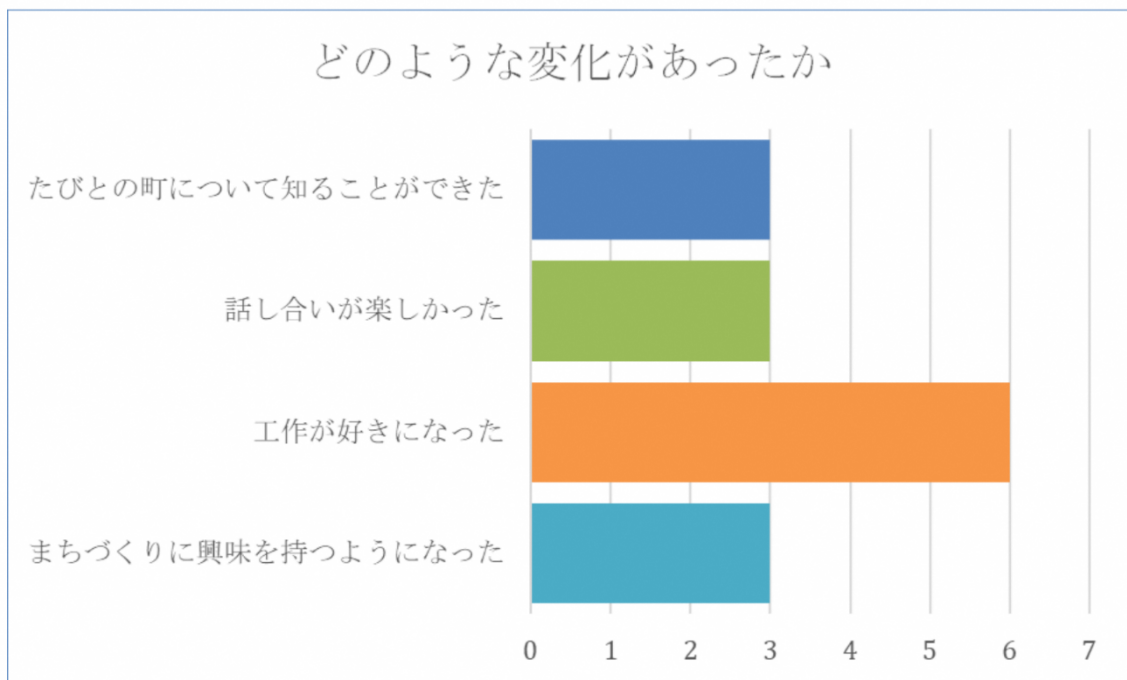




## (2) イベント参加後の変化

質問：「イベントに参加して、どのような変化がありましたか？」（複数回答可）

回答：下図参照



## (3) 楽しいと感じた内容

質問：一番楽しかったこと、もう一度やりたいことは何ですか(自由記述)

- ・「段ボールを切ること」
- ・「遊園地を作っているとき。また建物を作りたい。」
- ・「工作が楽しかった。」
- ・「スタジアムを作ったこと。」
- ・「建物づくり。他の建物も作りたい。」

・「食堂を作って発表したときに「かわいい」と言ってもらえたことが嬉しかった。」

・「さらに段ボールで建物を作りたい。」

・「まちづくりの建設」

#### (4) 困ったことや難しく感じたこと

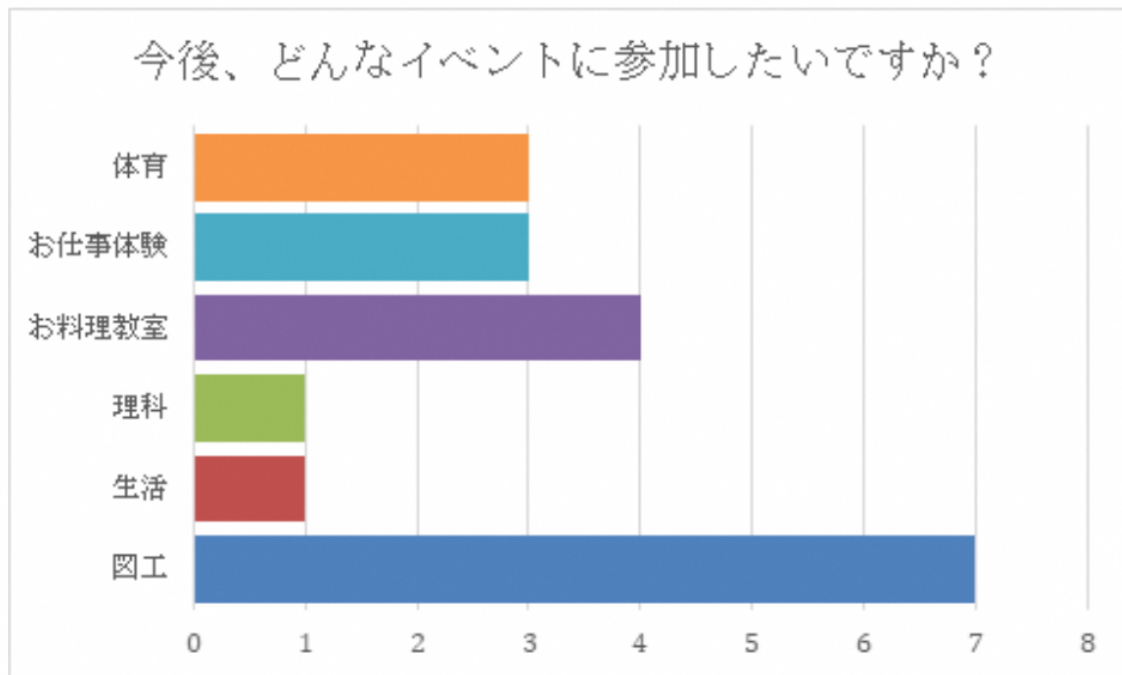
質問：「イベントの中で、難しく感じたり困ったりしたことはありましたか？」

回答：「はい」1人（理由：時間が足りなかった）、「いいえ」7人。

#### (5) 今後参加したいイベント

質問：「今後、どんなイベントに参加したいですか？」

回答：下図の通り



#### 4-1-2 子ども向けアンケート分析

(3) 「また建物を作りたい。」と言っている子供の声が多かった。

そのため、また街の活性化のきっかけとなるような町づくりイベントを開催を検討してみてもよいかもしれない。

(4) イベントの中で「難しく感じたり、困ったりした子」がアンケートを取った内8人中1人いた。そのため、今後は全員が難しく感じたり、困ったりすることがないように丁寧にわかりやすく説明をしていく必要がある。

(5) 図工をやりたい子が圧倒的に多く、8人中7人が図工をやりたいと感じていた。

そのため、今後開催するイベントは図工要素の高いものが多い。

また、2番目に多かったのはお料理教室で、8人中4人がやりたいと感じていた。

3番目は、8人中3人がお仕事体験をしたいと感じていた。

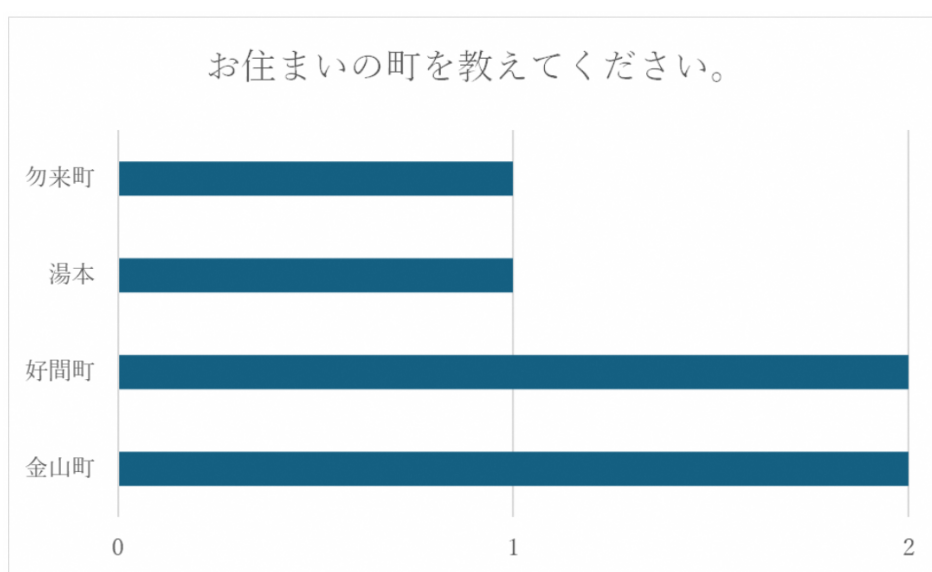
これらのお仕事体験とお料理教室を踏まえて、コック体験や、ハンバーガー屋さん、すし屋さん、ドーナツ屋さん、パン屋さんなどいろいろなお店屋さんになり切る、某キッズニア的な体験が合っていると思われる。

#### 4-2-1 保護者アンケート結果

##### (1)参加者の居住地

質問：お住まいの地域を教えてください。

回答：下図の通り



##### (2)申し込みの動機

質問：当イベントにお申込みいただいた理由をお聞かせください。（自由記述）

回答：

・InstagInstagram を見て興味があり、以前キャンプに参加していたのでお世話になった、お兄さん、お姉さんに会えたらなと思い参加しました。

・娘が楽しそうやってみたいと言ったため。

・内容が楽しそうだったため、田人ワークキャンプビレッジに興味があったため

・子どもが工作大好きで、工作系のワークショップや習い事を探していたため。また、普段関わることができない世代の方たちとコミュニケーションを取る経験もさせたかったため。

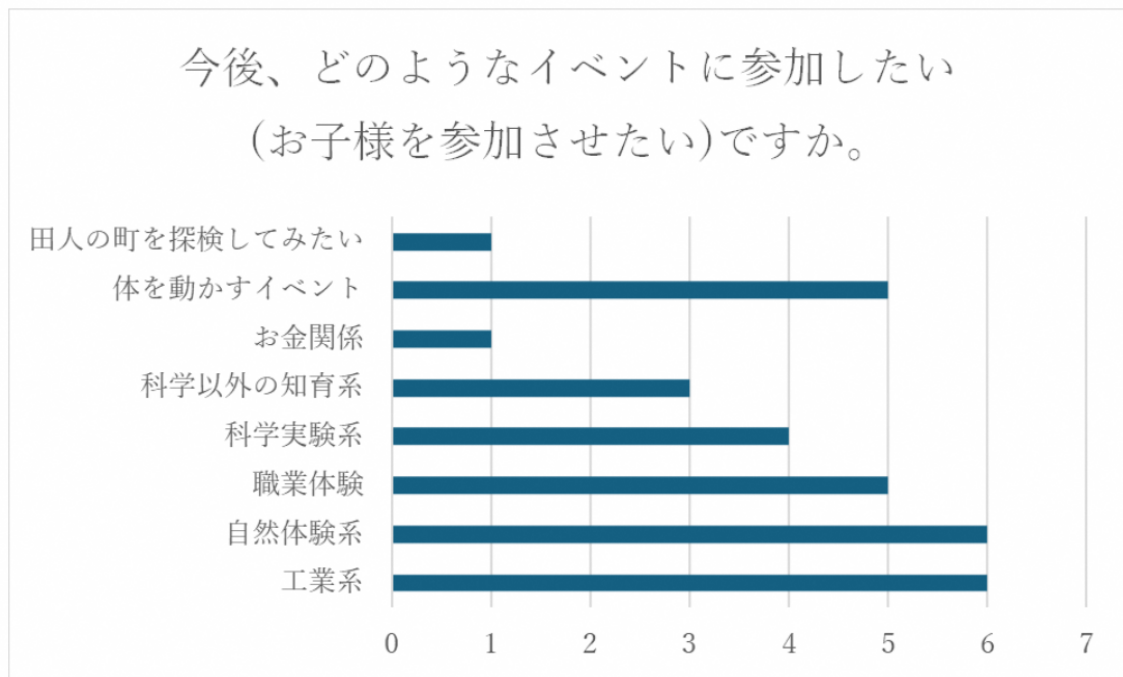
・子どもが工作好きな為

・工作が好きで、普段から段ボールで色々作っていて、今回、開放的な空間の中、ダイナミックにイメージを持って作れるということで参加しました。また、顔なじみの友達や初めての友達、大学生のお兄さん、お姉さん、いろんな人達と触れ合い、人とのつながりを持ってほしいため、申し込ませて頂きました。

### (3)参加させたいイベント内容

質問：今後、どのようなイベントに参加したい(お子様を参加させたい)ですか。

回答：下図



#### 4-2-2 大人向けアンケート分析

- (1) 田人周辺の様々な地域から参加していただいた。田人内の住民はいなかった。今回のイベントを通して田人外の人に田人のまちについて知ってもらえる良い機会となったのではないかと。一方、田人住民との交流という観点ではあまり達成できていないと言えるので、今後は田人在住の参加者を積極的に増やせるよう努め、田人住民のより豊かな暮らしに直接的に貢献できる企画をできるようにしたい。
- (2) イベントに申込みいただいた理由として、子どもが工作が好きという理由が多く見られた。その他、子供たちが普段関わることのできない、大学生などの人と触れ合い、つながれる機会があるからという理由もあった。
- (3) 今後どんなイベントに参加したいか尋ねた結果、自然体験や工業系が最も多く、次いで体を動かすイベントという結果になった。自然体験では田人の自然豊かな魅力を活かすことができ、工業系では工業大学生としての知識を十分に発揮できるので、保護者のニーズと現時点の強みを合致させるチャンスが大きくあると考える。

## 5.活動のまとめ

### 5-1 まとめ

今年度は、昨年度の現地活動で見えた田人の課題と本活動の指針を踏まえ、田人の交流人口を増やすために子供がのびのびできるイベントを開催した。ダンボールシティで子供たちがモノづくりに笑顔で夢中になっており、活動の目的を達成できたと考える。さらに、まちづくり体験はのびのびできる楽しい空間を創出しただけでなく、子供たちが現在身の回りで進んでいるまちづくり事業に向き合い、将来まちづくりに関わるきっかけを提供した。子どもたちの遊戯的活動、創造力促進、地域への関心向上を同時に実現できた点で、非常に有意義なイベントであったと振り返る。

### 5-2 来年度に向けて

今回実施したダンボールシティを活かし、来年度以降は引き続き田人の交流人口を増やすことに努める。

### 5-3 感想

・初めて田人でイベントを企画し、不安も多かったが、現地の方のサポートを受けながら良いイベントにすることができたと思う。イベント中は子どもたちの創造力に圧倒されることが多く、とても刺激を受けた。今回は参加者10人以内で開催したが、今回の企画を皮切りにより大規模でのイベントを開催し、田人地区の関係人口増加に繋げていきたいと強く思った。(小幡真愛)

・今回イベント内で子供たちと段ボールシティ制作に臨みましたが、子供の発想力や行動力には驚かされました。自分が建物を作ろうとすると、床の長さから壁の長さまで全ての長さを測ったうえで切っていく為とても時間が掛かるのですが、皆すぐに切り始め完成形まで持っていける点や、そのとても高いクオリティは想像を超えていました。内装や外装に至る全てに自分の好きな物を詰め込めるのは、今の自分に真似できない魅力なのだと感じています。(平大和)

・今回のイベント「ダンボールシティ」を通じて、参加した子どもたちが意見を出し合いながら協力し、想像以上に高いクオリティの建物を作り上げる姿に大きな感動を覚えました。また、小学生ならではの柔軟な発想や、常識にとらわれない自由な考え方を目の当たりにし、自分の思考がいかに固定的であるかを改めて実感しました。この経験を通じて、大学の講義や日常生活の中でも、もっと柔軟な発想を取り入れる努力をしたいと思います。

・今回初めて自分たちでイベントを開催するという事で、最初は上手くいくか不安だったが、現地の方のサポートもあり成功させることができ安心した。今回のイベントを通して、子どもたちの想像力や行動力、頭の柔らかさにとっても驚かされた。今回は小規模での開催だったが、来年はさらに規模を拡大し、また自分もより積極的に意見を出して取り組んでいきたい。

・今まで参加者としてイベントに参加したことはあるが、開催者としてイベントに携わることは初めての経験だったため、参加者が満足するイベントを開催できるかイベント準備期間は不安だったが、沢山の方のサポートもあり満足するイベントを開催できたようで良かった。今回のイベントの良かった点と改善点を踏まえて、今後の活動をより良いものにしたい。

・今回のイベントを通じて、自分たちが目指したものを実現する難しさと、その意義を実感した。イベントでは子供たちが自分の考えを自由に表現し、それを形にする姿に驚かされた。特に、まちづくりというテーマに対する子供たちの柔軟で自由な発想には学ぶことが多かった。また、現地の方々や仲間との連携を通じて、企画や運営には工夫と調整が必要だと痛感した。一方で協力する中で見えてきた課題も多く、次回に向けて改善したいと思った。これからも田人の魅力を活かしながら、さらに意義のあるイベントを企画したい。

・普段の活動では、イベントや活動の手伝いをするのが多かったので自分たちでイベントを企画・運営することは慣れないことも多く不安があったが、現地の方のサポートやチームで協力してイベントを開催することができた。イベントでは、子供達の柔軟な発想や工作力に驚かされることも多くあり、貴重な経験となった。

・今回のイベントを通じて、イベントの概要を聞いた当初は、イベントの進行をスムーズに進められるか、子供たちを楽しませながら「ダンボールシティ」を完成させることができるのかなど、色々な不安があった。しかし、子供たちの発想力や創造力、純粋に楽しみたいという気持ちのおかげで、そういった不安要素を抱え込む必要はなかったと気付かされた。また、私たちだけの力ではなく、地域の人々の協力もありイベントを成功することができたと思う。今後は、今回以上のイベントの発展を目指せるよう尽力していきたい。

・イベントを準備している間は、いわき市の子供たちにとってこのイベントがどう受け止められるか気になった。それぞれが、目の前の構造物に一生懸命取り組んでくれた。また、小学生にとって、大学生とのかかわりは緊張することなのかと心配したが、双方のコミュニケーションは問題なくとることができた。しかし、建物作成後の話し合いで、満足したフィードバックをすることができなかった。それは、意見を発表することの大切さ、建物の存在意義、建物の設置する場所の3つ全てを子供たちに伝えようとし、子供たちが困惑した様子を見せたからである。全てを全力で伝えようとするのではなく、一番伝えたいことは何なのかを意識して話してみるものの大切さをイベントから学んだ。